

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4071900908		
法人名	有限会社ベストケアカンパニー		
事業所名	いきいきハウス日吉町		
所在地	福岡県田川市大字糶2264番地1		
自己評価作成日	令和2年12月10日	評価結果確定日	令和3年1月14日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/40/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ヘルスアンドライツサポートウリずん
所在地	福岡県直方市知古1丁目6番48号
訪問調査日	令和2年12月19日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

いきいきと活発に、そして「長生きをして良かった」と思っていただけ施設を目指して運営しています。施設職員もこの一年間で新しいメンバーが多くなりましたが、理念の共有については日々確認し実践の目標と据えて頑張っています。新型コロナウイルス感染症の社会的蔓延の中、グループホーム施設の役割とはなにか、を見つめる機会と捉え、予防と準備を万全に行っています。施設管理者とサブリーダーも新しくなり、今後も利用者様一人ひとりの思い・健康・安らぎとご家族様の思いを大切にできる施設運営を行って行きたいと思えます。足掛け13年在籍の利用者様で、来年4月に満100歳となられる方がいらっしゃいます。只今記念のビデオレターを鋭意作成中で、誕生日に披露するために職員全員で取り組んでいます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

各入居者が掲示している年始目標の具現化で、入居者が「いきいき」と暮らす支援に努めている。「元気に暮らしたい」との目標を、食器拭きや洗濯物たたみなどをお願いし、感謝の言葉を必ず添えて支援したり、毎日の外気浴を兼ねた散歩で笑顔や活気を引き出し、職員の声かけでアクティビティ、立ち上がりや屈伸運動を継続している。コロナ禍の中、全家族に玄関で短時間でや、居間のガラス戸越しでの面会をお願いしている中、100歳になる入居者のお祝いビデオを作成中である。11月の運営推進会議では参加された家族や地域代表、市職員に家族の面会、転倒や虐待に関する取組みを報告し、理解や協力をお願いしている。「楽しい、やりがいがある」、「職員も年始目標を掲げたい」との職員の言葉から、入居者や職員が共に「いきいき」と地域密着型サービスの展開が期待できるホームである。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
61	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:30)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

ユニット／事業所名 **いきいきハウス日吉町**

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念の概要を職員各位が理解、浸透できるように、様々な機会に話し合っている。	理念を玄関に掲示し、各入居者の年始目標の具現化で、理念の「入居者がいきいきと暮らす」支援に努めている。職員の「いきいき」が重要と、職員も年始目標を掲げたいと話している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地元区の会合や行事に参加し、施設の活動に理解を得るように広報を行っている。しかし新型コロナの感染防止の為、外出や行事参加は控えていることが多い。	自治会加入を継続している。回覧板は地域の情報を知ったり、持参した近隣の方と話す機会となっている。昨今の状況から地域行事は中止となっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	公民館の転倒予防教室の際には、職員が意見を求められることがある。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議の設置目的を明文化し、会議録の施設内掲示と利用者家族への報告で行っている。	開催中止月は、状況等を書面で関係者に報告し、意見をお願いしているが、11月は家族や地域代表、市職員の参加で短時間で開催している。家族の面会、転倒や虐待に関する質問には取組みについて報告し、会議録は玄関で公表している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	事例ごとの各種相談のほか、報告や助言を得るようにして連携に努めている。	入居には至らなかったが地域包支援センターから入居の紹介を受けるなど、居室状況は随時報告している。介護扶助等の給付を受けている入居者もあり、毎月担当者に必要書面を送付している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員への人権教育を通じて、介護業務における禁止事項を周知徹底しており、拘束につながる考え方や言動について排除して実践できている。安全性を高めるイコール拘束につながるのではないよう職員間で注意して支援できている。	定期的な身体拘束適正化委員会や研修会を開催し、身体拘束をしないケアを実践している。職員は「待つて」や「座ってて」ではなく納得してもらえる声かけを模索している。調査時、車椅子から立ち上がろうとされる入居者を広報紙の手遊びで気をそらす心遣いがあった。センサーの活用はなく、鈴を活用して入居者の動向を見守っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修などで周知したことを職員間で情報共有し理解を深め虐待の防止を徹底している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修などでの解説を行っているが活用の実績はない。 相談できる行政窓口が記載されたパンフレットを用意している。	日常生活自立支援事業や成年後見制度の活用はないが、必要に応じて説明できるように、事業や制度に関する資料を整備している。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	適切に行っている。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	身体・生活状況などをご家族に説明をする際、意見や要望を伺い、運営に活かすことを実践している。	コロナ禍に配慮し、来所した家族には玄関で、季節毎の行事や日頃の暮らしぶりをなど報告し、意見を伺っている。もうすぐ100歳になる入居者に毎日おやつを持参し食べさせていた家族からは、先行きを考えて面会を考慮してほしいとの意見があったが、感染予防に理解や協力をお願いし、了解を得ている。	共用空間の壁に掲示している運動会や敬老会などの入居者のスナップを来所された家族が見れる工夫で、家族の意見の表出を期待します。
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員各位の意見を集約し、運営に活かしている。	月1回のミーティングは運営者が参加することもあり、率直な意見交換の場となっている。運営者や管理者との個別面談もあり、管理者は頻回に運営者に職員の意見や状況を報告し、意見の反映に努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務条件等、代表者と職員との話し合いの機会を持つことにより、職員が向上心を持って働けるよう努めている。		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を發揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	職員の意見や社会情勢などの情報を得ながら、職員の働きやすい環境整備に注力している。	この1年は離職はないが、夜勤専従になったり、系列事業所から異動した職員もある。管理者は理念を実践するために、よく気がつく職員を育成したいと、職員の段階に応じた指導やアドバイスを行っている。入職2年目になる職員は、「楽しい、やりがいがある」といきいきと就労している。調査当日、明るい元気な笑顔で、入居者にレクリエーション指導する職員もあった。	
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	採用選考において各自の条件を先入観なく公平な判断を行っている。	法人のDVDで人権に関する内部研修を実施している。日頃から敬語での対応をミーティングで確認しているが、管理者は気になる言動についてはその場で注意を喚起している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	DVDを使用した研修を実施し啓発に努めている。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	地域の介護事業者の交流会に参加している。 新型コロナウイルスの感染予防の為、交流会は減少した。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご利用者の申し込み段階からインテークアセスメントを実施し、ご家族や介護に従事された方からの情報収集も行い、早い段階からより多くの習得を行っている。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	不安解消を第一に考え、ご家族の立場や状況を理解できるように努めている。そのうえで介護のプロとして支援していけることをわかりやすく伝え信頼関係の構築に努める。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご利用者の申し込みで得られた情報を基に、利用者様とご家族が求めている支援とは何かをしっかりと見極め、行政や医療機関とも密接に連携しながら最適な方法を模索している。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	御本人の能力やメンタル状態に応じて、共に生活していく者としてかわり方を考え、安心して生活できる環境を提供できるようにしている。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	話し合いによりできる限りの支援をお願いし（関係を断った家族にならないよう）関係の維持に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	知人や旧友との連絡や訪問もとぎれることがないよう支援している。 これまで大切にしてきたが、新型コロナウイルス感染防止の観点から支援が困難となっている。	コロナ禍以前は、毎日来所していた家族もあったが、全家族にマスクを着けて玄関で短時間でや、居間のガラス戸越しでの面会をお願いしている。実兄が医療機関受診に同行する入居者もあり、関係継続を支援している。	
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員が間に入り、利用者同士の関係を把握し、考慮しながらお互いにとっての最適な支援ができるよう工夫しながら行っている。 繰り返すトラブルは未然に防げるよう配慮した対応をしている。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院後のフォローはもちろん、自宅復帰ができた方においても、定期的に連絡を取る、また時には訪問するなど関係が途切れることがないよう努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の表面的な意向ではなく、本質的な意向を見抜き、提供、実現につなげている。	フェースシートやアセスメントシートに職歴や生活歴、心身の状況を整備している。職員によって態度を変える入居者の思いを把握したいと、日頃から良い関係づくりに励んでいる。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者だけでなくご家族、または介護を提供してきた方からの情報も収集し、これまでの暮らしの把握に努める。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	変化し不穏になっていく心身状態のタイミングや時間、声のかけ方等を把握し、きっかけをみつけることでご利用者様が安心できる環境造りに努める。		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員からの日々の利用者の状況や状態を聞き取りご家族や関係者の情報も参考にしながら意見も介護計画に活かす。	本人の元気に暮らしたいとの意向や、家族の身体を動かしてほしいとの意向に沿って、食器拭きや洗濯物たたみ、自室の棚掃除をお願いしている入居者もある。「手が痛い」などの訴えもあるが、感謝の言葉を必ず添えて、心身を動かす支援を継続している。	詳細なアセスメントや職員の気づきの集約を短期目標に活かし、個々の入居者の年始めの目標の達成を支援する介護計画の作成や見直しを期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	申し送りノートや個別の提供記録や拾い出しシートなども情報共有しながら、実施、評価を行い介護計画を見直している。		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	個別ケアを目標に一人一人にあった支援を提供できるよう検討している。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の催事や季節に応じたイベントの企画もあったが、感染防止の観点から実施が困難となるが多かった。		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	医療機関の受診については、柔軟に対応している。事業所と医師との情報共有にも努めながら支援している。	協力医療機関が主治医の入居者もあるが、入居前からのかかりつけ医の受診を支援している入居者もある。看護師の資格のある常勤職員が医療連携で訪問診療や訪問歯科の適切な受診を支援している。	
33		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職員は看護師との情報共有を行い適切な看護が受けられるよう支援している。市の保健師への相談も行っている。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	各病院の看護師やソーシャルワーカーといった職種の方々との連携を通じて治療の方針や早期退院に向けての話し合いを行っている。		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	初期の契約段階で概ねの意向把握を行い、健康状態に応じて、その都度具体的な方向性や意向把握を行っている。	先月早朝に、呼吸状態がおかしくなり救急搬送された入居者は、救急車内で急逝され、検死を受けている。重篤な疾患にも関わらず全く痛みの訴えはなかったが、家族への連絡などに時間を要し、重度化や終末期に向けた方針の詳細な説明や同意書の取り交わしを再確認している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的な研修などを通じて救命の基礎知識を習得すると共に、個別に外部研修やAEDの訓練を実施している。		
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害対策マニュアルを手おしし、行政に提出している。	4月・10月、火元は浴室、日中を想定した避難訓練を実施している。4月の訓練は消防署から、昨年同様灯油の保管場所や段差の解消について指導を受けている。マスクや消毒薬、飲料水やお粥、乾パンを備蓄している。	個々の入居者に緊急連絡先や内服薬情報などの持ち出す書面の検討をお願いします。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	「よく気が付く職員さん」を目標に、日常の言葉使いや、表情の指導を常に行っている。	入居者は〇〇さんと呼ばれ、一人ひとりの性格や認知度を理解した対応で穏やかに過ごされている。管理者は日々の声かけや対応が、入居者の尊厳にかかわる行為と理解しながら指導している。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	判断が難しい利用者へも、選択していただきながら尊重している。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本となる生活習慣を守りつつ、利用者個々人のペースを尊重し支援を行っている。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	着衣の選択や身だしなみ、本人の意向を尊重し考慮しながら支援している。		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	「御飯がおいしい」と言われるようにと職員が熱意をもって工夫するようになった。	職員が同じテーブルで同じ食事をしながら、見守りや声かけをしている。居眠りで食事が進まない入居者にはタイミングを見計らい、再度食事を出すなどの心配りをしている。2週間に1回、入居者とパン作りを楽しみ、誕生日は本人希望の1品が並び、恒例の忘年会はカニ鍋、クリスマス会はケーキなどの行事案内が壁を飾り、当日の楽しみとなっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の状態など配慮している。		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	日々の口腔ケアの徹底のほか、訪問歯科の指導を受けている。		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄介助を積極的に行い、成果が出ている。	排泄が自立されている方もあるが、日中はトイレでの排泄を支援し、夜間は安眠を重視した支援に努めている。排泄介助時、「どこに行くのか」や「何をするのか」を説明し、納得してもらって支援に努めている。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食物繊維の摂取を多くし、運動や水分、腹部マッサージなどにより自然排便を促す努力をしている。		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	生活リズムの維持のため、曜日は職員が決めて入浴しているが、利用者個人のペースで行っている。	広めの個浴槽やシャワーチェアが設置され、浴室や脱衣室は清潔で整理整頓されている。自前のシャンプーやリンスなどを使用し、職員2人体制で浴槽に浸かる入居者もある。入浴を億劫がる入居者はなく、長湯の入居者が多く、入浴が楽しみとなっている。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ゆったりとした時間の過ごしやすさがあり、安眠の確保に取り組んでいる。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	原則として、個々人の薬の手帳を活用し、服薬の把握とその効能を理解し変化を記録して医療機関と連携している。		
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	こもりきりにさせないことを原点に、様々な工夫や役割分担、楽しみごとの提供を通じて実践している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	毎日の散歩、買い物、催事のお出かけなど、外出の機会確保をできるだけ多くとの思いで行っているが、感染防止の観点からも考えながら実施している。	毎日外気浴を兼ねた散歩を継続している。調査時も帽子を被ってもらいながら、全入居者を外に連れ出している。外出前とは違い笑顔や活気のある顔で帰って来る入居者が多く、プランターに植えた野菜の出来具合を見に行く入居者もある。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	御本人が金銭を所持している人はいない。ホームの買い物に出かけたときはレジの支払いは利用者をお願いしている。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	年賀状などの時候の挨拶状、お礼状など折に触れ支援を継続している。		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感や安心感を感じやすくする工夫し居心地に配慮している。	玄関に設置されたソファは、靴の着脱やひと休みの場となっている。クリスマスグッズが華やかに飾られ行事毎の写真が掲示された居間や廊下は、職員のかけ声でレクリエーションを楽しみ、手すりにつかまって立ち上がりや屈伸運動の場となっている。空調や換気に配慮し、テレビ前のソファや食卓で寛いだり、ソファに凭れて居眠りをする入居者の姿があった。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者が各自の思いで過ごせるようになっている。		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各居室は個性的で落ち着く雰囲気を出せるように工夫している。	居室入口には、個々の顔写真を貼った敬老のお祝いカードが職員のメッセージを記載して掲示されているが、大きく名前を掲示した居室もある。各居室とも、ベットや筆筒、テレビを備え付け、職員手作りの棚もあり、誕生日カードが大きく飾られている。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	職員の見守りのもと、自分でできることはご自分で行うことを原則とし援助している。		